

## 広瀬川創生プラン策定推進協議会設置要綱

(平成16年6月18日市長決裁)

### (設置)

第1条 杜の都仙台のシンボルである広瀬川を市民と行政との協働による取り組みにより将来にわたって保全し、広瀬川の新たな魅力を創出するための市民行政共通の行動計画として「広瀬川創生プラン」(以下「プラン」という。)を策定し総合的に推進するため、「広瀬川創生プラン策定推進協議会」(以下「協議会」という。)を設置する。

### (所掌事務)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について検討し、協議を行う。

- 一 市民と行政との協働によるプランの策定に関すること
- 二 市民と行政との協働によるプランの推進に関すること

### (組織)

第3条 委員会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、関係機関の職員、学識経験者、企業及び市民団体のうちから市長が委嘱する。

### (任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

### (会長)

第5条 協議会に会長を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 会長に事故あるときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

### (会議)

第6条 会長は、協議会の会議を招集し、その議長となる。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席をしなければ開くことができない。

3 会長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その意見を聴き、又は説明を求めることができる。

### (庶務)

第7条 協議会の庶務は、建設局百年の杜推進部百年の杜推進課において処理する。

### (委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

### 附 則

この要綱は、平成16年6月18日から実施する。

この要綱は、平成19年3月1日から実施する。

この要綱は、平成19年4月1日から実施する。

この要綱は、令和4年4月1日から実施する。

仙台市

からのご案内

アイラブ 広瀬川

広瀬川創生プラン

広瀬川に関する活動に取り組む団体を応援します

## 広瀬川魅力創生サポーター認定制度

企業などの  
イメージアップや  
活動のアピールに

広瀬川創生プラン取組事業に関する活動（運営など）を行っている団体を  
“**広瀬川魅力創生サポーター**”として仙台市が認定し、その取り組みを応援します  
市民、NPO、事業者、行政の協働で広瀬川の魅力創生に取り組みましょう！

### サポーターの種類と支援の内容

活動に応じて  
グリーンからゴールドへ  
ステップアップ



広瀬川

グリーンサポーター

仙台市ホームページで  
活動を紹介



広瀬川

ゴールドサポーター

仙台市HPで  
活動を紹介

認定証を  
交付



認定要件・申請の流れは裏面へ



### 申請・お問合せ先

仙台市建設局百年の杜推進課  
広瀬川創生係

TEL : 022-214-8327

認定申請書のダウンロード  
その他詳細はこちらへ

仙台市ホームページ



<https://www.city.sendai.jp/hirosegawasose/ninteiseido.html>

# 認定要件（活動実績）と申請の流れ

どんな活動をすると  
認定されるの？



## 広瀬川グリーンサポーター

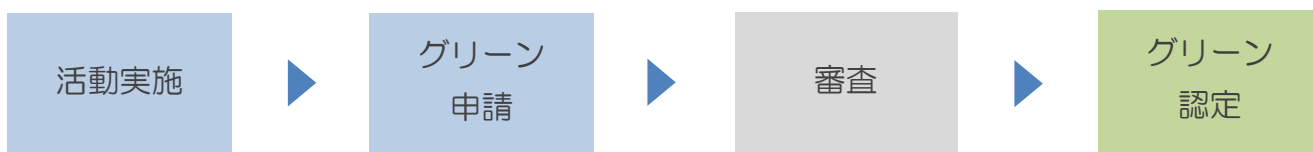
広瀬川創生プランの取組事業(※1)に延べ 10 人以上従事

※1 申請の前年度～当該年度に開催されたもの

### 取組事業と活動の例

- 「広瀬川 1 万人プロジェクト」などの清掃活動に参加
- 「広瀬川で遊ぼう」などのイベントの運営に従事

取組事業一覧は  
仙台市 HP へ



## 広瀬川ゴールドサポーター

グリーンサポーターの認定期間中に次のいずれかの活動に従事

- ✓ 「広瀬川 1 万人プロジェクト」清掃活動の会場事務局（又は補助）を 3 年以上担当
- ✓ 広瀬川創生プランの重点事業の主催団体（又は補助）として 2 回以上(※2)活動

※2 うち 1 回は重点事業以外の事業（多くの市民が参加できて  
広瀬川の保全や賑わいづくりに貢献する取組）でも可

### これまでの重点事業の例

- 広瀬川で遊ぼう
- 作並かつぱ祭り
- 広瀬川 1 万人プロジェクト

現年度の重点事業は  
仙台市 HP へ



※3 広瀬川創生プラン策定推進協議会の意見聴取

認定の有効期間 2 年間

対象団体 NPO、企業など

## 広瀬川創生プラン 取組事業



自然を守る清掃活動や川に親しむイベントなど、広瀬川ではたくさんの活動が行われています。「広瀬川創生プラン」には広瀬川に関する様々な取組事業を掲載していますので、興味のある活動にぜひ参加してみてください。

## 広瀬川 1 万人プロジェクト実行委員会のあゆみ

杜の都・仙台のシンボルといわれる広瀬川ですが、市が過去に行ったアンケート調査で、広瀬川に足を運ぶ市民が少ないことが浮き彫りになりました。広瀬川の自然環境を保全し、まちづくりの核として位置づけるためには、より多くの市民が広瀬川への関心を持つことが必要であるという観点から、広瀬川に関わるきっかけづくりとして 2002 年に流域一斉清掃がスタートしました。

【1 万人】には 100 万都市の 1% の市民が広瀬川への関心を持つことで、広瀬川をもっと良くしていこうという想いが込められています。清掃活動の参加者は当初は 400 名程度の規模でしたが、春と秋の年二回開催となった 2007 年には倍の 800 名となり、その後も順調に参加者が増え、2019 年には 3600 名を超える規模になりました。ほぼ毎年、500 袋（ゴミ袋大）以上のゴミを回収しており、広瀬川の環境や景観の維持と海洋ゴミの抑制にも寄与しています。（図）

活動の内容も一斉清掃にとどまらず、2015 年からは「広瀬川学校」を開催し、様々な角度から広瀬川の魅力や課題を学ぶ機会を提供しています。（写真）

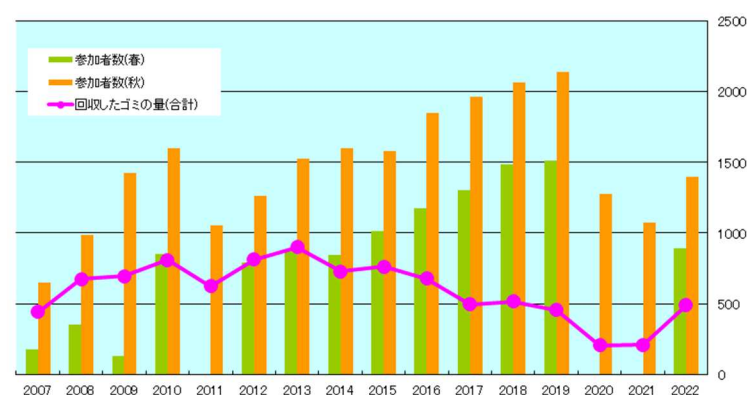


図 2007 年以降の参加者数と回収したゴミの量の変化



写真左 作並断層と作並温泉（2017 年 3 月）



写真右 阿武隈川・名取川における洪水の歴史と治水対策（2021 年 12 月）

多くの方々のおかげで順調に活動を展開できていますが課題もあります。参加者が増え続けたことで、過密状態の会場が増えています。過密になると受付や運営などで参加者と会場担当の双方の負担が増すことから、適正な規模で開催できるように会場の増設が必要になっています。各清掃会場は、実行委員会の有志の協力によって運営していますが、諸々の負担があるために担い手が少ないのが現状です。そのようななか今年度の秋の一斉清掃で、過去最多となる 19 会場で実施することができたのは、今回表彰された皆様のご尽力の賜物です。この場を借りて御礼を申し上げますとともに、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 広瀬川 1 万人プロジェクト実行委員会

## 設立 20 周年記念総会及び講演会

### 1. 開 会

開会挨拶 広瀬川 1 万人プロジェクト実行委員会 委員長 梶谷真

### 2. 来賓挨拶

仙台市長 郡和子 様（代理 仙台市建設局長 千葉幸喜 様）

広瀬川市民会議 会長 江成敬次郎 様

国土交通省仙台河川国道事務所 所長 田中誠柳 様

宮城県仙台土木事務所 所長 籠目勇一 様

### 3. 2022 年度活動報告

活動報告 広瀬川 1 万人プロジェクト実行委員会 事務局長 菅原正徳

### 4. 感謝状贈呈

個人感謝状贈呈 5 名

団体感謝状贈呈 14 団体

### 5. 基調講演

演題：広瀬川の環境とサケの遡上 宮城教育大学 准教授 棟方有宗 様

### 6. 閉 会

閉会挨拶 広瀬川 1 万人プロジェクト実行委員会 副委員長 大場秀行

令和 5 年 1 月 27 日（金）

仙台市市民活動サポートセンター



## 委員長あいさつ

広瀬川1万人プロジェクト実行委員会 委員長 梶谷 真



広瀬川1万人プロジェクト実行委員会は2002年度に発足し、2022年度で設立20周年を迎えます。「杜の都・仙台」のシンボルである広瀬川の清流を守り、川や堤防のごみをなくし、生物多様性が豊かな自然環境を守り、多くの市民が親しめる広瀬川とするため、100万都市仙台的1%・1万人をキーワードとして、市民・企業・行政などで実行委員会をつくり環境保全を図る活動を展開しています。発足当初の実行委員会のメンバーは12団体でしたが、現在は220団体を超す大きな組織になりました。今後も年2回の広瀬川一斉清掃と河川環境や治水・利水に関する勉強会広瀬川学校、及び今年度から始めたSDGsに関する企業向け研修を活動の基本にしていきたいと考えております。今後関係者の皆様方のご協力とご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

## 市長あいさつ

仙台市長 郡 和子



広瀬川1万人プロジェクト実行委員会設立20周年を迎えましたこと、心よりお祝い申し上げます。

広瀬川は「杜の都・仙台」のシンボルであり、市民共有の貴重な財産です。この美しい広瀬川の景観や自然環境を次世代に引き継いでいくためには、市民一人ひとりがその魅力を再認識し、市民協働により新たな魅力の創出に取り組んでいくことが重要です。実行委員会の皆様には、市民協働の最前列で、主に広瀬川流域一斉清掃活動を行って頂いていることに感謝申し上げます。

今後、より一層の活動に期待するとともに、本市と致しましても引き続き環境保全活動の取り組みを支援してまいります。実行委員会の益々のご発展と関係する皆様のご活躍を心より祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 【個人表彰】

運営会議（旧ワーキンググループ）の活動で10年以上または事務局の活動で5年以上にわたり組織運営にご尽力をいただいた個人

野口 登美一 様	仙台環境開発株式会社
浅野 公隆 様	三洋テクニクス株式会社
加藤 桂子 様	株式会社N J S 仙台事務所
桜木 勇人 様	広瀬川市民会議
杉山 ふじ子 様	広瀬川市民会議

## 【団体表彰】

流域一斉清掃において概ね10年以上会場担当として運営にご尽力をいただいた団体や企業（カッコ内は担当会場）

- 作並地区未来プロジェクト（作並）
- 仙台環境開発株式会社（作並）
- 株式会社宮城衛生環境公社（野川橋）
- 仙台市カヌー協会（折立）
- 三洋テクニクス株式会社（折立ほか）
- 株式会社建設技術研究所東北支社（牛越橋）
- 株式会社深松組（澗橋）
- 株式会社N J S 仙台事務所（大橋左岸）
- 八本松緑地愛護協力会（八本松）
- 特定非営利活動法人水・環境ネット東北（八本松ほか）
- 特定非営利活動法人名取ハマボウフウの会（閑上海岸）
- 情報労連宮城県協議会（閑上海岸ほか）
- 株式会社サトー技建（宮沢橋）
- 株式会社三洋設計（宮沢橋ほか）

# R4重点事業・主な取組事業マップ

参考資料4



## 重点事業1 広瀬川1万人プロジェクト 清掃会場

- |           |               |
|-----------|---------------|
| ① 作並会場    | ⑪ 宮沢橋会場       |
| ② 野川橋会場   | ⑫ 広瀬橋会場       |
| ③ 折立会場    | ⑬ 八本松会場       |
| ④ 牛越橋会場   | ⑭ 千代大橋会場      |
| ⑤ 澱橋会場    | ⑮ 太白大橋会場      |
| ⑥ 仲ノ瀬橋会場  | ⑯ 名取川鉄道橋会場    |
| ⑦ 大橋左岸会場  | ⑰ 関上大橋会場      |
| ⑧ 大橋右岸会場  | ⑱ 関上海岸会場      |
| ⑨ 評定河原橋会場 | ⑲ かわまちテラス関上会場 |
| ⑩ 米ヶ袋会場   | ⑳ 荒浜海岸会場      |
|           | ㉑ 貞山運河新堀会場    |

## 主な取組事業

- |  |                       |
|--|-----------------------|
| ① 東北工業大学ライフデザイン学部生連携事業<br>(東北工業大学の学生との広瀬川歩き) | ③ 水辺と、船上で乾杯<br>(大橋界限) |
| ② 「地誌学」学外実習連携事業<br>(東北学院大学の学生との広瀬川歩き)        | ④ 広瀬川界限ぶらり散歩          |

## 重点事業2 アイラブ広瀬川プロジェクト

- |                                       |
|---------------------------------------|
| ① 広瀬川自然体験学習<br>(ニッカウキスキー仙台工場内)        |
| ② Art Standing in SENDAI<br>(宮沢橋下流左岸) |
| ③ 広瀬川スマホ写真教室<br>(広瀬橋～愛宕大橋上流)          |

# 【情報提供：仙台海国】 広瀬川環境導水の試験通水実施について

【目的】 広瀬川の瀬切れ防止等のために計画していた広瀬川環境導水関連施設について、現状においても通水が可能であるか確認を行うもの。また、木流堀排水路だけではなく、木流堀用水路による通水が可能であるかも兼ねて試験通水を行うものである。

【日時】 令和5年3月10日(金) ※1:広瀬川及び旧笹川導水施設取水ポンプ場の略

10:00～ 取水ポンプ場※1を運転させることによる試験通水(木流堀排水路)

13:30～ 木流堀用水路を活用した試験導水(取水ポンプ場は停止)

【関係・協力団体】 名取川水系湯水情報連絡会の皆様

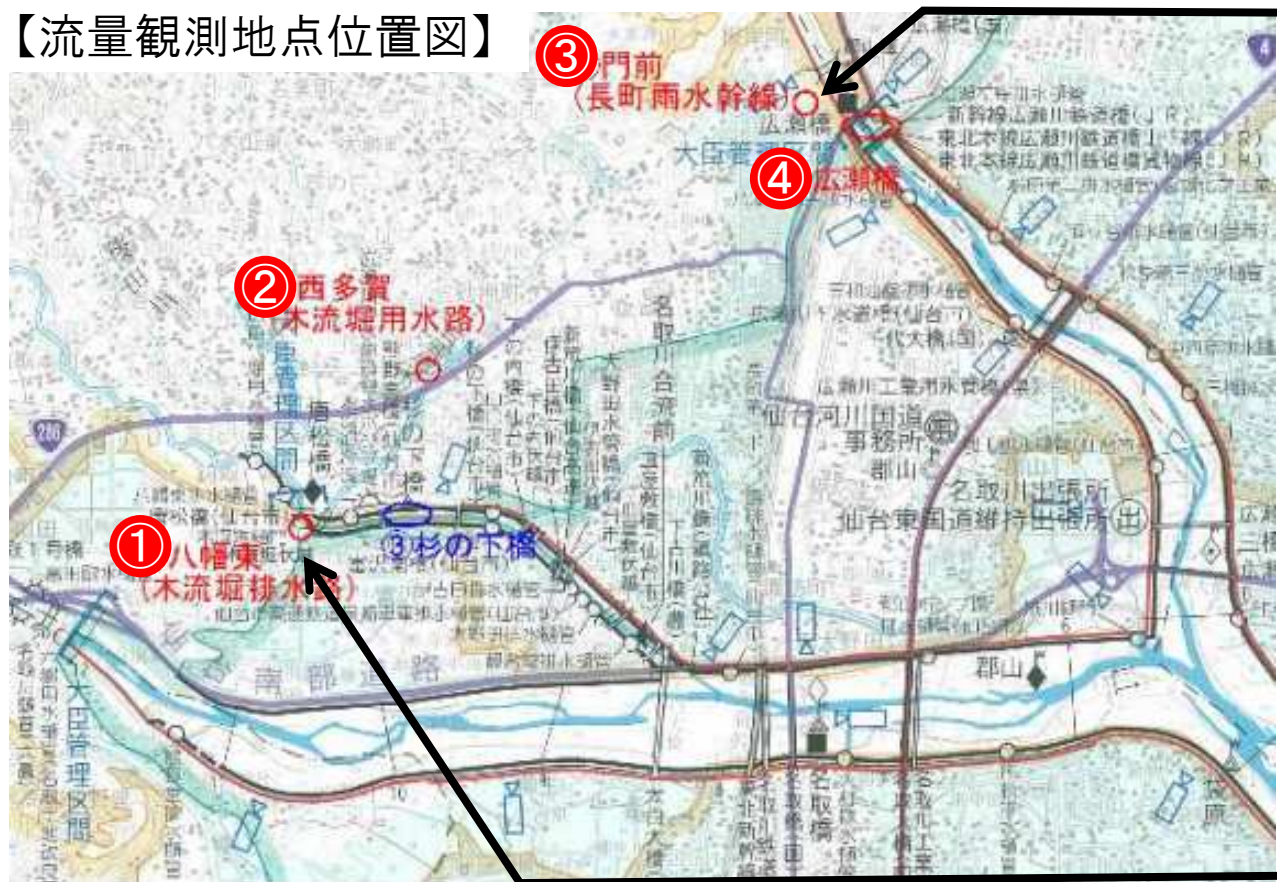


- 凡例
- 安全管理
  - 流量管理
  - 施設等



# 【情報提供：仙台海国】 広瀬川環境導水の試験通水実施について

## 【流量観測地点位置図】



## 【当日の流量観測結果（速報値）】

※初期流量→ピーク流量→減水後流量という順序で流量を記載  
なお、小数点以下第2位を切り捨て表示（単位：m<sup>3</sup>/s）

[AM：取水ポンプ場を運転(木流堀排水路)]

- ・ 01八幡東： 0.0→ 0.7→ 0.4 ※排水路
- ・ 02西多賀： 0.0→ 0.3→ 0.0
- ・ 03門 前： 0.0→ 0.4→ 0.0
- (04広瀬橋：15.5→15.7→17.9 ←参考扱い)

[PM：木流堀用水路を活用]

- ・ 01八幡東： 0.2→ 0.4→ 省略 ※用水路
- ・ 02西多賀： 0.0→ 0.3→ 省略
- ・ 03門 前： 0.0→ 0.3→ 0.1
- (04広瀬橋：15.5→15.7→17.9 ←参考扱い)



## 2022年 助成団体※の紹介

### 特別助成団体

#### 一般社団法人子育てプラットフォーム MaRu 【宮城県仙台市】

子育て支援施設の運営等を通じ、親子がふれあう時間や子育て情報を提供。宮城県の子育て情報を集めたマタニティBOXを製作・配布することで、妊婦が出産前から各種支援や地元企業と継続的につながる機会を創出し、地域・企業一体となった子育て支援体制づくりを目指す。



### 助成団体

#### 下北ジオパークガイドの会 【青森県むつ市】



ユネスコ世界ジオパーク認定を目指し、下北ジオパークを活用したガイド活動、地域の魅力発信に取り組む。下北ジオパークに関する地元住民等へのさらなる理解浸透を図るため、リモートツアーの企画やオンラインを活用したガイド研修を実施し、地域間交流の拡大を目指す。

#### 株式会社北三陸ファクトリー 【岩手県九戸郡洋野町】



洋野町を舞台に地元の中高校生と大人が学び合うフィールドワークや、地域外の学生に向けた水産産物を基とするスタディーツアー等を展開。産業廃棄物となっている「うに殻」を肥料に、耕作放棄地を造成した水田で、酒米を生産し日本酒を作る。その一連のプロセスを体験コンテンツとして提供することで、地域内外のコミュニティを生み出す場とし、関係人口の拡大を図る。

#### Alfrece composition 株式会社 【秋田県由利本荘市】



秋田県産米のみみ殻と秋田杉の木くずを利用してふなしめじを生産し、環境に配慮した生分解性フィルムで包装し県外へ出荷する。加えて、販路拡大等に課題を抱える高齢農家にも利用しやすい農作物の受発注サービスを開発し、普及・促進を図り、地元農業の活性化を目指す。

#### Team 道草 【山形県山形市】



山形大学の学生が、地元住民へのヒアリングを実施し、地域の課題等を把握。学生の手で魅力的なプログラムに落としこみ、体験コンテンツとして同世代の学生に提供することで、若者が地域に愛着を持つためのきっかけづくりに取り組む。

#### しゅふコミ 【福島県郡山市】



子育て中の母親向けに、座談会を開催。座談会で出た課題を解決するための地域情報をまとめた冊子を作成し、行政より母子手帳とともに配布。また、6次化商品を提供する託児付カフェを運営し、父親と母親がともに休息をとりながら、商品モニターとしての役割を担う場とすることで、6次化事業者と消費者をつなぐ仕組みを構築する。

#### 合同会社 ミライズ 【新潟県新発田市】



廃業店舗が増加する状況に対し、地域全体を活性化するため「歩いて楽しい温泉街」を目指し活動。地域に点在する空き店舗等を飲食店や土産店としてリノベーションし、温泉街の周遊性の向上に取り組む。今後、新潟のメインコンテンツである「米」をテーマにしたショップをオープンし、観光客へ新潟県産米をPRする。

※制度の一部変更により、今回公募する助成内容(助成団体数等)とは異なっておりますので、助成内容詳細は中面をご覧ください。

◎お申し込み先・お問い合わせ先

東北電力株式会社 ソーシャルコミュニケーション部門 地域共生ユニット

〒980-8550 仙台市青葉区本町1丁目7番1号

TEL:022-799-6061 [受付時間:平日9:00~17:00(12:00~13:00を除く)]

e-mail:s.program.wa@tohoku-epco.co.jp ホームページ:https://www.tohoku-epco.co.jp/sprogram



〈個人情報等の取扱について〉

・本制度が取得する個人情報は、本制度に関する選定作業、選定結果の通知、本制度に係る諸連絡、地域づくりに関する当社からのご案内(当社の地域づくり支援制度「まちづくり元気塾®」)に関するご連絡等、広報活動に限定して使用します。

※「まちづくり元気塾®」当社ホームページURL:https://www.tohoku-epco.co.jp/genki/

・助成団体名およびそのプロジェクトに関する情報を、広報誌や広報活動のため公開することがあります。

・本制度が取得する個人情報、団体のプロジェクトに関する情報は、東北電力が委託選定作業に携わる審査機関および審査員に提供します。

## 東北電力地域づくり支援制度 東北・新潟の活性化応援プログラム 2023

地域の課題解決のために立ち向かう  
情熱あるプロジェクト、大募集!



| 申請書の受付開始日:2023年3月16日(木)

| 申請書の提出締切日:2023年4月23日(日)



# 2023年「東北・新潟の活性化応援プログラム」応募要項

地域の課題解決のために立ち向かう情熱あるプロジェクト、大募集!



## 1. 趣旨

「東北・新潟の活性化応援プログラム」は、東北6県と新潟県内の各地域で、地域産業の振興や、地域コミュニティの再生・活性化、交流人口の拡大など地域課題解決のための自主的な事業や活動を行っている団体を応援することを目的としております。

## 2. 応募資格

- 東北6県と新潟県に所在する団体が主体となって実施している事業や活動(※)であること  
※自治体・個人の事業や活動は対象となりません。
- 地域産業の振興や、地域コミュニティの再生・活性化、交流人口の拡大などの地域課題解決に資する事業や活動を1年以上行っており、今後も継続する団体の事業や活動であること

## 3. 審査の対象となる事業や活動

地域産業の振興や、地域コミュニティの再生・活性化、交流人口の拡大などの地域課題解決のための自主的な事業や活動(受託事業等は対象外)

### 地域産業の振興

- 具体例
- ・6次産業化による若者雇用の創出
  - ・デュアルライフ、UIターン促進のための環境整備と普及活動の実施
  - ・インターネットを利用した商品販売による持続的なコミュニティビジネスの展開
  - ・伝統技術のデジタルアーカイブ化による保護・伝承

### 地域コミュニティの再生・活性化

- 具体例
- ・空き家や廃校を活用した地域交流の場の創出
  - ・農山漁村交流を通じた定住促進事業の展開
  - ・オンラインWEB会議ツールの活用による他地域との文化交流・コラボレーションイベントの企画・開催
  - ・空き店舗情報のデータベース化による利用希望者とのマッチング

### 交流人口の拡大

- 具体例
- ・観光拠点づくり事業の展開
  - ・SNSを活用した伝統工芸、伝統芸能の普及啓発
  - ・地域の拠点施設の通信環境拡充(Wi-Fi導入等)によるワーケーション需要の取り込み促進
  - ・スマートフォンの位置情報と連動したリアルタイムな観光情報の提供

## 4. 助成内容

### (1) 助成団体

応募いただいた東北6県・新潟県の団体からソーシャルビジネス部門(※1)およびコミュニティアクション部門(※2)の両部門において、各々最優秀賞1団体・優秀賞1団体を選定し、以下のとおり助成いたします(※3)。

【ソーシャルビジネス部門】		【コミュニティアクション部門】	
最優秀賞(1団体)	100万円	最優秀賞(1団体)	50万円
優秀賞(1団体)	50万円	優秀賞(1団体)	30万円

- ※1. 地域社会の課題解決に向けて、ビジネスの手法を活用して取り組む事業。
- ※2. 地域社会の課題を、コミュニティを通じて解決しようとする活動。
- ※3. 応募状況や審査結果等により、選定数が計4団体未満となることがありますので、予めご了承ください。  
なお、部門については、申請の段階ではなく審査の段階で内容に応じて審査員が判断いたします。

### (2) 使用期間

助成金の使用期間は、助成決定後(2023年11月頃)から2024年12月末までとします。

### (3) 助成の対象となる費用

申請書に記載されたプロジェクト(※)を実施するために必要な経費(団体自体を運営するための費用は対象外)

※やむをえない理由により、申請書に記載されたプロジェクトに変更が生じた場合は、その旨を連絡いただき、変更後のプロジェクトを提出いただきます。



## 5. 審査基準

以下の点を総合的に考慮し審査いたします。

- ① プロジェクトの実現性・事業性  
・プロジェクトの先進性、具体性、(ソーシャルビジネス部門の場合は)収益性、採算性など中長期的な視点をもった申請内容となっているか
- ② プロジェクトの地域貢献性  
・地域課題を的確に把握し、プロジェクト実現により課題の解決につながる申請内容となっているか  
・ソーシャルインパクトを創出するアイデアか
- ③ 団体の継続性・発展性  
・団体の収支・財務状況、事業や活動の実績  
・団体として明確なビジョンをもっており、事業や活動に継続性・発展性が見込まれるか  
・人材育成や活動の継続のために多世代にわたるメンバーを巻き込んでいるか

## 6. 応募方法

所定の申請書に必要事項を記載のうえ、以下の添付データを添えて、電子メールによりご応募ください。  
なお、提出いただいた応募データ等は返却いたしかねますので、予めご了承ください。

### 【申請書入手方法】

東北電力のホームページよりダウンロードをお願いいたします。

### 【添付データ】

- ① 会員名簿等団体のメンバーが記載されたもの(必須)
- ② 直近の年度決算書または収支報告書(写)(必須)
- ③ 助成金を活用して実施するプロジェクトの詳細資料(任意)

### 【ご応募いただく際の留意事項】

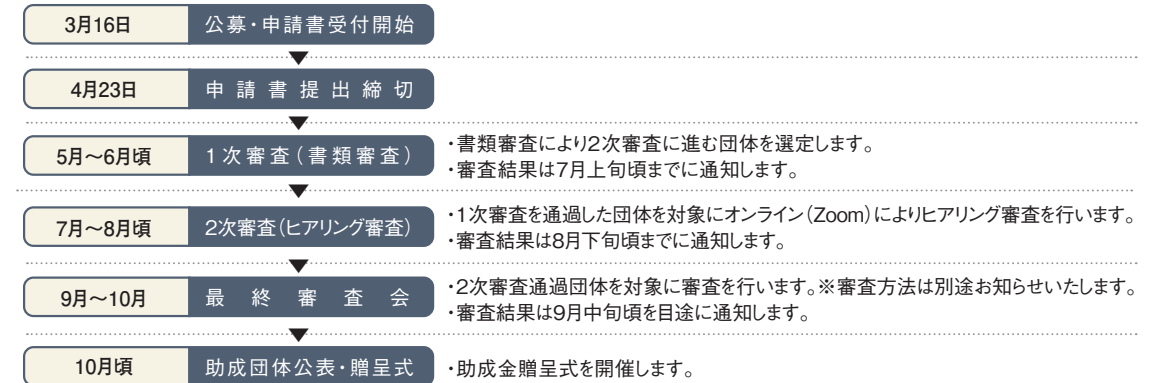
メールに添付するファイルの総容量を、合計で6MB未満とさせていただきますようお願いいたします。6MBを超えますとメールを受信することができない場合がありますので、ご注意ください。

公募開始・申請書受付開始日：2023年3月16日(木)

申請書の提出締切日：2023年4月23日(日)

お申し込みいただいた皆さまに対して、応募期間終了後(5月19日までに)、当社からメールにより、申請書受領のご連絡をいたします。5月19日までに連絡がない場合は、お手数をおかけしますが、裏面の「お問い合わせ先」にご連絡ください。ただし、当社が関与する以外での応募データの紛失等のトラブルや損害について、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

## 7. 助成団体決定までの流れ



※審査経過および決定理由等についてのお問い合わせには応じかねますので、予めご了承ください。

### ～助成団体については、以下の事項に同意いただくことを条件といたします～

- ・プロジェクトを実施する際は、当社が助成した旨を表示すること
- ・プロジェクトの実施後、成果報告書(助成金を活用したプロジェクトの写真データの提供を含む)および支出に関する決算報告書を提出すること
- ・助成金の使用期間は助成決定後(2023年11月頃)から2024年12月末までであることを踏まえ、2024年12月末までに上記報告書を提出することを前提として助成金を使用すること
- ・プロジェクト進捗の報告や取材を当社より依頼させていただき、広報誌や広報活動のため公開することがあります
- ・プロジェクト内容に疑義が生じた際は、助成金を返還いただく場合があります